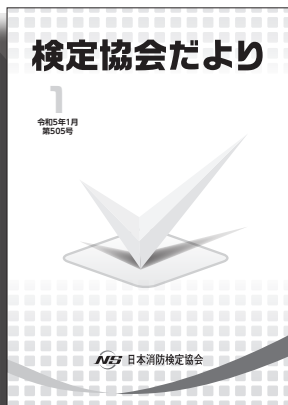


検定協会だより

1

令和5年1月
第505号





令和5年1月号

<http://www.jfeii.or.jp>

目次

新年のご挨拶

- | | | |
|----|------------------|----------|
| 1 | 日本消防検定協会 | 理事長 市橋保彦 |
| 2 | 消防庁 | 長官 前田一浩 |
| 3 | 全国消防長会 | 会長 清水洋文 |
| 4 | (一社) 全国消防機器協会 | 会長 金森賢治 |
| 5 | (一社) 日本火災報知機工業会 | 会長 伊藤龍典 |
| 6 | (一社) 日本消火器工業会 | 会長 遠山榮一 |
| 7 | (一社) 日本消火装置工業会 | 会長 金森賢治 |
| 8 | (一社) 日本消防ポンプ協会 | 会長 中島正博 |
| 9 | (一社) 日本消防放水器具工業会 | 会長 横井 亮 |
| 10 | (一社) 全国避難設備工業会 | 会長 菊池 信 |
| 11 | (一社) 日本消防ホース工業会 | 会長 白岩 強 |
| 12 | (一社) 全国消防機器販売業協会 | 理事長 白井 潔 |
| 13 | (一社) 日本消防標識工業会 | 会長 星野照生 |
| 14 | (一社) 日本消防服装・装備協会 | 会長 鉄村秀哉 |
| 15 | (一社) 日本照明工業会 | 会長 島岡国康 |
| 16 | ガス警報器工業会 | 会長 高橋良典 |
| 17 | (一社) インターホン工業会 | 会長 谷口尚史 |
| 18 | (一社) 全国設備業DX推進会 | 会長 千田新一 |

協会情報

- | | | |
|----|----------------|----------------|
| 19 | 「表面張力計」の更新について | 消火・消防設備部 消火設備課 |
|----|----------------|----------------|

お知らせ

- | | |
|----|-----------------|
| 24 | 有効期限を経過した受託評価品目 |
|----|-----------------|

- | | |
|----|-------------------|
| 25 | 協会通信・業界の動き・消防庁の動き |
|----|-------------------|

- | | |
|----|--------------------------|
| 30 | 検定・性能評価・受託評価数量 (令和4年12月) |
|----|--------------------------|

- | | |
|----|--------------|
| 28 | 新たに取得された型式一覧 |
|----|--------------|

新年のご挨拶



日本消防検定協会
理事長 市橋保彦



令和5年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

消防関係者の皆様には、日頃から日本消防検定協会の業務につきまして格別のご理解とご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大から3年が経過しようとしています。今なお感染予防対策の徹底が求められる状況に変わりはありませんが、一方でワクチン接種も進み、社会経済活動の活発化に向けた取り組みが進められるなど、少しずつかつての日常が取り戻されつつあります。当協会といたしましても、引き続き職員の感染防止対策を徹底し、適切な業務運営に努めてまいります。

また、去年は誠に残念な話ではありますが、不正な手段によって型式適合検定に合格した消防用機械器具等の合格の決定の取り消しを行うという事案が初めて発生しました。当協会といたしましては、事案発生の背景、原因等の分析結果等も踏まえ、このような問題が二度と繰り返されないことがないように、再発防止策の徹底を図り、消防検定制度への信頼確保に努めてまいり考える考えであります。消防機器業の皆様も、日頃より法令遵守にはしっかりと取り組んでおられることと存じますが、改めてより一層の徹底をお願い申し上げます。

さて、日本消防検定協会は本年10月1日をもって創立60周年を迎えることとなります。これを機会に改めて消防検定制度の意義、重要性に思いを致し、今後とも厳正な試験、検定、評価等の実施を通じて、火災その他の災害による危害の軽減に資するという検定協会設立の目的を果たし続けることができるよう努力を重ねてまいります。また、社会経済情勢の変化や多様化する災害事象を踏まえながら、当協会の有する消防用機械器具等に関する専門的な知識・技術を生かし、国民の生命、財産等の一層の安全確保に貢献できるよう、職員の資質向上や試験設備の充実などにもしっかりと取り組んでまいります。

消防機関をはじめ関係業界の皆様には、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の今後ますますのご健勝とご発展、そして本年が災害の少ない平穏な年となりますよう祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和5年1月

新年のご挨拶



消 防 庁
長官 前田 一 浩



令和5年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。皆様方には、平素から消防防災活動や消防関係業務などに御尽力いただいております、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、消防戦団員の皆様には、災害対応の最前線で御尽力をいただき、重ねて感謝申し上げます。

昨年は、3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震や台風第14号などによる自然災害に見舞われ、多くの方々が犠牲になりました。

お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

災害現場においては、被災地の消防本部や地元消防団はもとより、被災状況により県内消防応援隊も総力を挙げて最前線での活動等に当たっていただき、多くの人命を救助していただきました。改めて皆さんの御活躍・御尽力に敬意を表しますとともに、心から御礼申し上げます。

近年の甚大化・頻発化する土砂・風水害や南海トラフ巨大地震、首都直下地震などの発生が危惧される中、国民の生命、身体及び財産を守る消防の果たす役割は、益々増大しています。

そのため、消防庁では、国民の皆様が引き続き安心して暮らせるように、緊急消防援助隊や常備消防等の充実強化、消防団や自主防災組織等の充実強化をはじめ、火災予防対策の推進、消防防災分野における女性や若者の活躍推進など、消防防災力の強化に取り組みます。

とりわけ、団員減少が危機的な状況にある消防団については、引き続き、装備や資機材の充実強化に取り組みとともに、広報の充実や、報酬の充実等による団員の処遇改善、モデル事業の国費による支援など、消防団員の確保に全力を挙げてまいります。

また、昨年10月から11月にかけては、北朝鮮から発射された弾道ミサイルにより、2度にわたり国民保護情報がJアラートで送信されたところであり、Jアラートに関する自治体向けの研修及び訓練や、弾道ミサイルを想定した住民避難訓練の実施により、より一層国民保護体制の整備に万全を期してまいります。

さらに、新たな科学技術が大きく発展していく中で、消防の分野にも適切に反映・活用していくことも忘れてはなりません。災害時における国・自治体間の映像共有手段の充実を図ることを目的とした消防庁映像共有システムの構築や、マイナンバーカードを活用した救急業務の迅速化・円滑化に向けたシステム構築の検討、火災予防・危険物保安・石油コンビナート等の保安の各分野における各種手続の電子申請化など、消防防災分野におけるDXの推進に取り組みます。

また、今後も新型コロナウイルス対策を的確に講じていく必要があるため、救急隊員の感染防止対策など、救急搬送体制の充実強化を図るとともに、救急相談サービスを提供する「#7119」などの取り組みを促進してまいります。

加えて、本年5月には、G7広島サミットが開催される所であり、サミット開催期間中における消防・救急体制を構築してまいります。

皆様方におかれましては、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりとそれを支える我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展のため、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々の御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



全 国 消 防 長 会
会 長 清 水 洋 文



輝かしい令和5年の新春を迎え、全国の消防防災関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

日本消防検定協会の皆様におかれましては、消防用機械器具等の検定業務、性能評価業務、調査・研究等、多岐にわたる業務を通じて、消防行政の円滑な推進に多大なるご協力を賜り、深く敬意を表しますとともに、心より感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が未だ収束の兆しが見えない中、全国各地で救急搬送困難事案が激増するなど、消防行政においてもこれまでにない事態に見舞われました。3月には、福島県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生し、さらに8月以降は日本列島に相次いで台風が上陸するなど、全国各地で尊い人命と貴重な財産が失われました。

また、令和3年における全国の火災件数と住宅火災による死者数は、いずれも前年より増加している状況にあります。特に、住宅火災における死者のうち、65歳以上の高齢者の占める割合は7割を超えており、高齢化と都市構造の高度化・複雑化により火災時における人命危険の増大が懸念されております。

このような中、全国消防長会といたしましては、地域住民が安心して暮らせる安全な社会を実現するため、全国の消防防災関係機関との連携をより緊密にし、防災安全対策や住宅防火対策などを積極的に推進してまいりますので、引き続き、皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、日本消防検定協会の益々のご発展と、本年が災害のない平穏で幸多き一年でありますことを祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



NFES

一般社団法人 全国消防機器協会
会長 金森賢治



令和5年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年中は、消防庁をはじめ、日本消防検定協会並びに消防関係機関・団体の皆様には、当協会会員団体・企業等が格別のご高配を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大は、4年目を迎え終息の気配がありません。オミクロンなど新たな変異種が出現し、感染者が増加傾向にあり、まだまだ予断を許さない状況にあります。このような状況を鑑み、誠に残念ではありますが、当協会主催の新年名刺交換会・新年互礼会につきましては、本年も開催を中止することとしました。

また、感染症拡大による人流・物流への影響、ウクライナへのロシアによる軍事侵攻、温暖化の加速、異常気象の多発等全世界に影響する出来事が常態化し、社会・経済活動や生活環境様式にも大きな影響があり、消防機器業界においても少なからず影響を受けているところです。

一方、消防機器関係では、製造・試験・検査等の不適正事案や半導体等の原材料機器の品不足等により、一部の消防機器の供給に支障が生じておりますが、消防機器業界を挙げて法令遵守の徹底を図るとともに、適正な供給に努めることとしております。

さらに、我々消防機器業界としても、BCP・BCM（事業継続計画・マネジメント）の充実強化をするとともに、SDGs（持続可能な開発目標）を念頭にAI・IoT等や新素材・新技術を活用した消防機器開発に加えて、自然災害などの減災・防災に資する技術開発と普及に努めます。また、法令に基づく各種申請届出等の電子化に対応したDXの推進等、消防機器業界全体のボトムアップに努め、国家の安寧と社会の安全の確保に、貢献できるよう取り組む所存です。

また、平成24年度から日本消防検定協会の業務委託と併せ実施しています消防機器等に関する情報提供業務は、会員団体・企業等に対し、最新の予防行政の動向に関する情報等を提供し、好評をいただいております。今後とも継続して実施したいと考えております。

引き続き、私ども消防機器業界に対しまして、変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本火災報知機工業会
会長 伊藤 龍典



令和5年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、日本消防検定協会様をはじめ、消防関係機関・団体等の皆様には、当工業会会員各社に格別のご理解とご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、国内では1月以降、コロナ感染が拡大している都道府県に対し「まん延防止等重点措置」が順次適用され、3月には解除されたものの、その後、感染力の強い変異株が猛威を振るい、再び感染が急拡大しましたが、ワクチンの普及や重症化率低下などから、徐々にではありますが、コロナ前の生活に戻りつつありました。

海外では、コロナ禍に対する行動制限が続いている国もあり、加えて、軍事侵攻、物流の停滞、物価上昇、部品不足など世界経済は依然不透明な状況にあった1年でした。

本年は、平和を取り戻し、ウイズコロナでの新しい生活様式が確立された状況で経済活動が行える年となることを願っております。

当工業会としましては、基本的な感染予防対策を更に継続しつつ、着実な事業運営に努めているところです。

住宅用火災警報器につきましては、平成18年の新築住宅への設置義務化から今年で17年が経過しており、昨年引き続き「ホームページの活用」、「交換診断シート」や「設置・交換ガイドブック」を使っての広報、「広報資料無償提供事業」の実施など、交換促進のための活動に力を入れてまいります。

また、火災報知設備等のさらなる普及・点検維持管理等についても、昨年改訂を行いました「自動火災報知設備・ガス漏れ火災警報設備工事基準書ハンドブック」や「自動火災報知設備の非火災報対策マニュアル」を使っての広報活動に注力してまいります。

光警報装置につきましては、有効性・必要性についての普及・啓発用動画に続き、認知度向上のための動画を作成し、広報を行ってまいります。

当工業会としましては、引き続き社会の安全・安心に寄与できるよう微力ながら努めてまいり所存でありますので、本年も当工業会会員各社への変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、日本消防検定協会様をはじめ、消防関係機関・団体等の、益々のご発展と、皆様とご家族の方々のご健勝を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和5年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消火器工業会
会長 遠山 榮一



新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

旧年中は日本消防検定協会をはじめ総務省消防庁、消防関係機関の皆様、並びに関係各位より当工業会並びに会員各社への温かいご指導とご厚誼を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新たな世界情勢として2022年2月24日にロシア軍がウクライナに侵攻して10ヶ月が過ぎました。依然として、鉄道の駅、商業施設、学校、発電所などウクライナの民間施設に対する砲撃が継続的に行われ、それによる建物の火災や倒壊が相次いで発生しています。現地の消防隊は砲撃による生命の危機に立ち向かいながら負傷者の救護や消火活動を決死の思いで取り組まれています。日本消火器工業会では現地消防隊の消防活動に少しでも貢献することができればとの思いから、全国消防機器協会の消防隊用具支援活動に参画させていただきました。一日でも早く戦争が収束し安寧な国家となることを願うばかりです。

一方、総務省消防庁の火災の概要によると2022年1月から6月までの住宅火災は5,867件発生し、建物火災全体の約55パーセントを住宅火災が占めており、かつ、火災により命を失われる方の割合も住宅火災が最も多く、約69パーセントにまで達しています。

当工業会では、住宅防火を促進するための活動として国際福祉機器展、地方自治体において開催される住宅防火イベント、エコプロ2022などで住宅用消火器を展示し、その有効性をPRするなど普及活動を積極的に行って参りました。今後も種々な機会を捉え住宅防火に貢献していく所存です。

2022年9月、フッ素系POPs含有廃棄物の適正処理に関する技術的留意事項が環境省から発出されました。当工業会としてはPFOS及びPFOAを含む液体系消火器及び消火器用消火薬剤の廃棄に係る取り扱いについて、環境省及び関係機関と緊密に連携を取りながら、環境に負荷を与えない適正な処理に向けて努力し、未来に禍根を残すことがないように万全を期したいと考えています。

これからも、ユーザー視点に立った安全・安心・環境に優しい製品の開発に努め、会員一同が更なる品質向上に取り組んでいく所存ですので、関係各位のご理解とご協力の程、よろしく願いいたします。

結びに、日本消防検定協会をはじめ消防関係機関の皆様のご健勝とますますのご発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消火装置工業会
会長 金森賢治



令和5年の新春を迎え、皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、各消防関係機関の皆様には、一方ならぬご厚情を賜り誠にありがとうございました。

本年も引き続き、消防防災分野の発展を目指し努力を致す所存でございますので、ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は令和2年から続く新型コロナウイルス感染症による第6波や第7波の急速な感染拡大は、感染防止対策の長期化を余儀なくされた年となりました。

また、昨年2月にロシアによるウクライナ侵攻の長期化の影響は、新型コロナで疲弊した日本経済を直撃し、企業活動に大きな影響を与え、その動向に今まで以上に注視しなければならない大変な年でありました。日本政府の経済対策に期待するとともに、引き続きワクチン接種や基本的感染防止対策を励行し、感染拡大の第8波に備えることは、経済活動正常化の前途に光明が見え出して来るように思えます。

さて、昨年の工業会活動を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で多くの事業や行事が中止を余儀なくされるなか、従前からの事業に加え「講習会等への講師派遣」、「住宅防火対策推進協議会関係事業における住宅用スプリンクラー等の啓発活動」、「粉末消火設備設計・工事基準書（第2版）」の発刊を行ない、防災事業に携わる方々の意識向上、技術レベル向上への後方支援をさせて頂きました。

今後とも、各消防関係機関の皆様のお力添えを頂きながら、会員一同、積極的に新型コロナウイルス感染防止対策を行い、より活発な工業会活動を通して公益性を維持しつつ会員サービス事業と両立させ、業界を代表する団体として社会の安全・安心と国家の安寧に貢献できますよう各事業の充実化を図って参りたいと考えております。さらに昨年に引き続き「フッ素等消火薬剤の課題の整理と早期の情報提供」・「二酸化炭素消火設備の安全対策の啓発」に正面から対峙して参りたく考えております。

結びに、コロナ禍が収束し、日本消防検定協会様をはじめ、各消防関係機関の皆様のますますのご発展とご健勝を祈願いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

本年も何とぞ宜しくよろしくお願い申し上げます。

検定協会だより 令和5年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防ポンプ協会
会長 中島正博



令和5年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

日本消防検定協会様をはじめ、消防関係の皆様には平素より当協会の運営につきまして格別のご理解、ご高配を賜り、誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの第8波の長期化が懸念されている昨今ですが、海外から日本に入国する際の水際対策も大幅に緩和され、街のいたるところに訪日外国人観光客と思しき方々を見かけるようになり、日本各地の観光地も賑わいを取り戻しつつあります。まさにWithコロナ時代に突入し、少しずつ明るい兆しが見えてきたと言えると思います。これが景気回復を後押しすれば、業界も以前の状態を取り戻せることが期待できます。当協会におきましても関係各位の皆様のお力添えもいただきながら、今後の更なる好展開に向けて力を注いで参りたいと存じます。

しかし一方では、消防関係の皆様には消防自動車購入のための予算を獲得し、長年ご使用いただいた車両の更新を心待ちにしていたにもかかわらず、去年は消防用シャシの生産の遅延により、消防自動車の供給時期が大きく遅れ、関係の皆様には多大なご迷惑をおかけしております。そして令和5年は、加速走行騒音規制や側方衝突警報装置の装備などに代表される法規制への対応のため、消防用シャシの入庫時期に不透明な状況が続くことがほぼ確定しております。このように消防自動車等の製造を取り巻く環境は依然厳しいものではあります。安心・安全を第一に考え、当協会会員一同、これまでどおり高品質な製品の製造に努めて参ります。今後も消防自動車等の供給への影響を最小限とするよう、関係省庁をはじめとする皆様のお知恵をお借りしながら、適切に対処して参る所存でございます。

結びに、当協会会員一同、皆様からの一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に、日本消防検定協会様をはじめ、各関係機関の皆様にとりまして本年が輝かしい年になりますよう、ますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防放水器具工業会
会長 横井 亮



新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は皆様にたいへんお世話になりました。ここに感謝申し上げますとともに、本年も消防関係業界の皆様には引き続きご指導ご鞭撻を頂けますようお願いいたします。

昨年は、新型コロナウイルス感染の第7波が過去最多の感染数となり、病床の不足、後遺症による体調不良などが多数報告されました。第7波が下火になるとともに、旅行支援などの活性化対策が行われました。消防関連団体や多くの企業も、Withコロナに従い、食事ブースを分割するなどイベントを開催するようになってきました。本工業会も、この2年間の総会・委員会の縮小開催や中止としておりましたが、徐々に元に戻したいと思っております。このまま感染が終息し、以前の活動に戻れるよう期待したいところです。

昨年は、製造業において長年にわたる認証不正が発覚し、消防業界におきましても、同様の認証不正が問題となりました。長年の慣れや日常業務の恒常化により曖昧な解釈となってしまうため、あらためてコンプライアンスを重視して活動することが重要となってきており、本工業会でも再認識すべき事項となっております。

また、一般財団法人日本消防安全センターからの研究助成を受け、屋外消火栓機能向上の研究を行い、今後の機能向上に関する提案や方向性について研究しており、新製品の研究・開発に寄与できればと思っております。

私ども工業会は、一般社団法人日本消防ホース工業会と密接に連携を取り、保形ホースの物性面での劣化調査を行っております。検定品ホースの交換時期の啓蒙活動も含め、引き続きこれらの対応に努めて行く所存です。

終わりに関係各位の皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和5年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 全国避難設備工業会
会長 菊池 信



新年あけましておめでとうございます。

令和5年の新春を寿ぎ、一般社団法人全国避難設備工業会を代表いたしまして、心からお祝辞申し上げます。

旧年中は、総務省消防庁様を始め各関係消防機関の皆様、報道関係の皆様方には、当工業会及び会員各社に、御指導、御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

Withコロナ、Afterコロナが唱えられ、少しずつではありますが社会生活や経済活動などの日常を取り戻しつつある反面、ロシア・ウクライナ危機が様々なところに影響を及ぼしています。世界的な物価の上昇、特に金属原料の高騰による製品原価の上昇は依然とどまることを知らず、企業努力による価格の維持が困難となってまいりました。避難器具は金属の加工を主とするものが多く、価格を改定しても転嫁することが難しいレベルに達しています。そんな状況ではありますが、必要とされる製品を必要とされる場所に供給できるよう、また製品の品質と安全性を確保できるよう、努めていきたいと会員一同心を新たにしております。

さて、これまで製品の寿命について様々に研究を重ねてまいりましたが、総務省消防庁様のご協力もあり、旧製品の型式失効より30年近くが経過した緩降機につきましては、交換の一応の目安となるような訴求リーフレットを作成し、各所に配布させていただきました。製品のより高い安全性を求め、早めに本器の交換をしていただくことで事故を未然に防ぐことを目的としております。引き続き、金属製避難はしごにつきましても検討を重ね安心して避難器具を使用することができる指針を提案するべく、工業会としてさらなる、活動を進めてまいります。

また当工業会では、今般新たに技術委員会を設置することとしました。これまで会員が製造する製品は、種別として多岐にわたるため、専門の各社で技術開発などを単独で行うことが多く、なかなか進捗しないのが現状でしたが、意見交換を活発に行うことにより新たな器具の開発や既存器具の改良について、より迅速に研究を進めることが可能となると思われます。弱者施設等に対する垂直避難の考え方なども意見をまとめることができれば、よりよい社会貢献ができるものと期待しております。

一昨年のおおさか北新地の火災や令和元年のきょうとアニメーションの火災を踏まえ、避難器具はどうあるべきか、避難誘導に対する考え方はどうあるべきか、ということをお被災者の心理状態の観点から研究し、一人でも多くの命が救えるよう一層努力をしていきたいと考えております。さらに、点検・訓練時の不注意な取扱による事故を根絶させるべく、取扱説明をよりわかりやすく、また簡便にすべく工業会会員一同努力してまいります。

継続して、木造の防火対象物に対する避難器具の固定方法や新しい材質を用いた製品の研究など、関係機関のご指導ご協力を得ながら進めてまいりたいと考えております。

本年が明るい年となりますよう、関係行政機関及び消防関係業界の皆様、並びに会員各位が御健勝で、ますますの御発展、御繁栄されますことを祈念いたしますとともに、当工業会に引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

一般社団法人 日本消防ホース工業会
会長 白 岩 強



令和5年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

日本消防検定協会の皆様には、平素より当工業会並びに工業会傘下の会員に対し、ひとからならぬご指導とご支援を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

さて昨年は、尚も続く新型コロナウイルス感染拡大の中、海外渡航等の行動規制が緩和され、経済活動も徐々に回復するにつれ、2022年FIFAワールドカップに日本中が沸くなど、漸く日常にも明るさが戻って参りました。

消防分野におきましても3年振りの操法大会や、ドイツで開催されたインターシュツへの多くの企業の参加など、ポストコロナに向けた動きが高まりつつあります。一方3月の福島県沖を震源とした地震では、東北新幹線が脱線事故を起こす等甚大な被害が発生、又 北部九州や青森地方での度重なる豪雨による洪水、土砂災害は国民生活や企業活動に大きな混乱を生じさせており、市町村や民間を含む広範な対策が急務となっています。

昨年2月勃発したロシア・ウクライナ戦争は既に10カ月を超えております。あのミサイルが飛び交う悲惨な現場で、自らの危険を省みず懸命に人命救助や消火活動に励んでおられる、ウクライナの消防隊員の尊い姿を見るにつけ、これこそが消防の原点であり、「安全・安心」の持つ意味と役割の重さに改めて思いを致し、覚悟を新たにしているところでございます。

当協会と致しましては、懸案となっている検定品保形ホース2027年問題（検定品使用失効）について、関係各機関のご理解とご協力をいただきながら、早期の解決を図ると共に、保形ホースの点検基準作りにつきましても、関係各機関との連携・協力体制を密にし、着実に進めて参りたいと存じます。

又「カーボンニュートラル宣言」を受けた「脱炭素化」への具体的取組みにつきましても、会員各社と連携しながら積極的に対応して参ります。

最後に、今後共重要な役割を持つ消防用機器検定制度の充実とご発展を祈念申し上げますと共に、日本消防検定協会様をはじめ、関係各位の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和5年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 全国消防機器販売業協会
理事長 白 井 潔



令和5年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は日本消防検定協会様をはじめ総務省消防庁、消防関係団体の皆様には当協会及び協会会員に対しまして、ご指導ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、3年目になったコロナ禍、激震災害の引き金となる線状降水帯発生による局地的大雨・河川の氾濫等。また、ロシアのウクライナ侵攻、元首相銃撃事件、北朝鮮の度重なるミサイル発射等々、例年になく暗い話題ばかりです。新年の卯年は、兎は跳びはねる特徴があるため、景気が上向いたり回復するといわれているようです。明るい話題を冒頭に述べるができるよう祈るばかりです。

昨年の協会活動では、5月の定時総会は感染対策を講じて対面で実施しましたが、総会後の講演会、表彰式、祝賀会・懇親会は令和3年と同様に見送りました。また、2年続けて見送った仙台市での「全消販合同会議・講演会」は、10月に札幌市で3年振りに開催することができました。地元北海道はもとより全国から会員が集い、令和元年の名古屋市開催以来の会員相互の交流を図ることができました。会議内の会員PRタイムでは会員7社が自社の製品・ソリューションを発表し、講演会では消防庁予防課係長から「予防行政」と題してご講演をいただき、盛会裏に終わることができました。本年は11月に福岡市での開催を企画しております。

全消販は、点検業務を行う事業所が主体となっている全国で唯一の団体であり、平成6年に協会内で優良な点検業務実施者の発掘と資質の向上を図るため「優良事業所認定」を行い、適正な点検業務を通じて消防用設備等の維持管理の確保に励んでまいりました。今後も多様化する社会環境において、消費者に最も近い立場から消防機器の設置、設備点検等において地域の「身近な暮らしの安心と安全」のために努力してまいりますので、消防関係団体各位の当協会会員への力強いご支援を心よりお願いする次第です。

結びに、日本消防検定協会様をはじめ、各消防関係機関の皆様の方々の益々のご発展とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防標識工業会
会長 星野 照生



令和5年新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、ロシアによるウクライナ侵略に始まり、新型コロナウイルス感染の感染も収まる気配が無いままに終わってしまいました。圧倒的に優位と見られたロシアに対し、ウクライナ国民の抵抗と奮戦は目を見張るものがありますが、国民の方々の犠牲は目を覆いたくなるような惨状です。一方で、収まるかと思えば次の流行と、波状的に襲い来る新型コロナウイルス感染症には、人類の健康と社会経済活動への悪影響が留まるところがありません。

これに加えて、我が国国民をもっとも苦しめたのは、極端なまでの円安とこれに伴う猛烈なインフレでした。不景気な状態かどうかと考えますと、統計上の景況感はそれほど悪くないと言われますが、物価の高騰が国民を苦しめていることは紛れもない現実です。

このような状況下ではございますが、私ども日本消防標識工業会は、本年も会員一同心を新たに、今後とも消防行政に協力し、業界の発展に寄与すべく努力して行く所存でございます。本年も日本消防検定協会、日本消防設備安全センターをはじめ関係各機関に協力し、全国消防機器協会の一員として精励努力致しますので、何卒宜しく願い申し上げます。

近年は、地球規模の気候変動が牙をむいて襲ってきているように感じられます。このため自然災害の脅威が年々その威力を増し、突然待った無しに襲い来るものであります。超大型台風や線状降水帯による豪雨災害・土砂災害に対する備えは特に重要と思われまます。もちろん火災等の災害、地震等の自然災害に対する備えも、万全の体制が求められております。

当工業会と致しましてもこれら各種の災害に対処すべく、今後とも消防・防災行政に協力し、国民の皆様の安全・防災に少しでもお役に立てますよう、製品の開発・改良・普及に努め、防災・減災に少しでもお役に立てますよう努力してまいります。

当工業会では、日本消防設備安全センター認証品に加え、当工業会自主認定基準を満たす材料・工程で製造した「自主認定品」、またこの基準に準じた「推奨品」を用意し、各方面に採用をお願いしております。特に中輝度蓄光式の「図記号入り消火器標識」は、いざと言う際に効果的にその役目を果たすものと考えております。

当工業会会員企業が生産する「蓄光式避難口・通路誘導標識（日本消防設備安全センター認証品）」や「蓄光式消火器標識（図記号入り・当工業会推奨品）」は災害発生時の被害拡大を抑制するため有効な手段であります。これらの普及に努めるとともに、更により良き製品の開発・普及に努力いたして行きますので、本年も一層のご指導・ご鞭撻を皆様をお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。

検定協会だより 令和5年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防服装・装備協会
会長 鉄 村 秀 哉




令和5年の輝かしい新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、総務省消防庁をはじめ、日本消防検定協会及び各消防関係機関・団体の皆様には、当協会の運営並びに会員各社へのご厚情を賜りまして厚く御礼申し上げます。本年も引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染防止対策の推進はもちろんのこと、ロシア軍によるウクライナ侵攻やその戦争の影響による世界経済への打撃で、日本では円が下がり、食料品を中心とした値上がりのラッシュに見舞われてしまいました。しかし、政府の外国人旅行客に対する水際対策が緩和されたことに伴い、徐々にですが、外国人旅行客が日本に戻ってきています。本年は、従来の生活が早く戻ってきてくれることを唯々祈るばかりです。

このような中で、全国の消防職員・消防団員の皆様におかれましては、感染危険がある中での消火活動、救急活動、台風・土砂災害等における救助活動、国葬や年末年始における各種警戒活動などに従事して頂き、本当に頭が下がる思いです。引き続き感染防護体制を十分確保された上で、消防活動等に従事して頂きたいと願っております。

当協会では、災害現場で、消火活動等に従事される消防職員・団員の皆様が着装される防火衣、活動服、防火帽、防火靴及び防火手袋等の製造・販売等を行う会員から構成されており、また、感染防護衣やマスクなどの製造も行っておりますので、微力ながら新型コロナウイルス感染防止対策のお手伝いをさせて頂いております。特に、昨年は、ウクライナの消防隊員の皆様に活用してもらうための防火手袋を僅かではありますが寄附させて頂きました。

今後、当協会として、消防職員・団員の皆様が着装される消防服装・装備製品が火災等の輻射熱への耐熱性や防水性に優れるとともに、ウイルスなどからの感染を防止するとともに着心地や柔軟性等も確保できるように努めて参ります。また、昨年は5年ぶりに総務省消防庁が定めているガイドラインが見直しされて全国の消防本部等に通知されました。そのため、当協会では、従来から実施しております防火服等の自主管理制度の認定基準の見直しを行い、新しい基準を満足している防火服等には認定マークを表示することが出来ることとしております（当協会のホームページをご参考下さい。URL:<https://www.jfce.or.jp>）。

本年も会員一同、引き続き、安全・安心な消防服装・装備製品の品質の確保に努め、更なる品質の向上に取り組んでいく所存でございます。

結びに、日本消防検定協会をはじめ消防関係機関の皆様の益々のご発展とご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

 一般社団法人 日本照明工業会
Japan Lighting Manufacturers Association

一般社団法人 日本照明工業会
会長 島岡 国康



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、良き新年を迎えられたことと心からお慶びを申し上げます。

(一社)日本照明工業会は、照明器具や照明制御設備といった照明機器やランプ等それらの部品などを製造販売する企業会員で構成される団体です。一言で照明といっても、多種多様な機器が展開されております一方、あまりに身近で、その存在すら意識され難い、ただ生活には無くてはならないインフラ設備機器です。そして現在ではSDGsの観点からLED照明がクローズアップされています。

LED照明は、従来の白熱電球や蛍光灯に比べ、非常に効率が良いという特徴をしていますが、実は微細なLEDチップを上手く使いこなし、スリット形状や、扁平な形状あるいは軽量タイプなどと、設置される建築空間に合わせ様々な機器が商品化されています。すでに当会会員が製造販売する一般向け照明器具の99.6%はLED照明に切り替わっています。さらにLEDは制御コントロールが容易く、1日の太陽の変化に追従して光色を可変できる照明器具や明るさ人感センサと連動し、在室者のいる場所を心地よい明るさで照明できる照明システムや、スマートスピーカに対応しコントロール可能なLED照明など、単なる明るさ確保のための照明から、一歩進んだ次世代の照明機器が商品化されつつあります。当会では、これら高付加価値照明をLighting 5.0という概念で啓発推進することとしており、進化した照明の新たな価値をご理解いただけるよう活動しております。

Lighting 5.0は、超スマート社会「Society 5.0」に対応した照明として、位置づけており、業界をあげてSDGsへの貢献を目指しております。詳しくは当会ホームページで展開しておりますので、是非ご覧ください。

Society 5.0に対応する次世代照明

Lighting 5.0

詳しくは、

https://www.jlma.or.jp/sp/lighting_action_2030/

今年も引き続き、これらの活動を、関係省庁・関係団体の皆さまご支援ご協力を得ながら推進して参りたいと存じます。結びになります。皆様のご健勝を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和5年1月

新年のご挨拶



ガス警報器工業会
会長 高橋良典



令和5年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は日本消防検定協会様をはじめ、総務省消防庁、消防関係の皆様、全国のガス事業者の皆様には当工業会の運営、ガス警報器・CO警報器等の普及促進に向けて、格別なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

2020年以來、新型コロナウイルス感染症の拡大により国内外において大きな社会情勢の変化がありました。昨年はそれに加え、ロシアによるウクライナ侵攻が勃発、益々世界経済の見通しが不透明な状況となってしまいました。先ずは一日も早く平穏な世界にもどることを祈るばかりです。

このような中ではありますが、当工業会では、現場での警報器の普及啓発活動をより効果的に進めるため、引き続きリモート会議やガス警報器工業会のホームページを積極的に活用しながら、広報活動を進めております。加えて、今年度中にホームページの大幅なリニューアルを予定しており、関係の皆様をはじめ、より多くの一般消費者の方々にもアクセスして頂けるように一層の充実を図って参ります。

さて、消防庁では、住宅火災による死者数の低減を図るため、令和3年度事業として「住宅火災の早期覚知方策のあり方に関する検討部会」が発足し、約一年を掛けて議論され、昨年9月に報告書が公表されました。

報告書には、たばこ燻焼火災の早期検知方策にはCO警報機能等付加型住警器が有効であると挙げられています。CO検知機能を有したガス警報器や住宅用火災・CO警報器は、火災の種類によっては早期に火災を検知できる可能性があることから、被害防止に貢献できるよう引き続き普及拡大を目指して参ります。

当工業会は、ガス警報器、火災警報器が皆様の安全・安心の一助となるよう、さらなる普及や交換を図り、ガス事故や火災の撲滅に寄与して参りたいと考えております。関係の皆様のおかげで、2012年より行って参りました「ガス警報器リメイク運動（警報器の設置交換促進運動）」も10年の節目を迎えることができました。引き続き「(ガス警報器が) ついていて当たり前」の文化の構築を目標に、当工業会の事業推進に対し倍旧のご支援、ご指導を引き続き頂きますよう心からお願い申し上げます。そして、貴協会を始め、関係者の皆様にとって良き一年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和5年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 インターホン工業会
会長 谷口尚史



令和5年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、総務省消防庁をはじめ、日本消防検定協会及び関係各消防機関の皆様には、当工業会並びに会員各社が格別のご指導・ご高配を賜り心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、甚大化する自然災害の脅威に加え、日本経済は、国際・物流・物価・為替といった非常に不安定な社会経済情勢となり先行き不透明な状況が続いております。未だ収束が見えない新型コロナウイルス感染症等、様々な外部影響が顕在化し、我々の業界にも多くの影響がございました。一方、国内住宅市場に於きましては、新型コロナウイルスの影響で、外出の自粛やテレワークの普及等により在宅時間が増加し、住宅への関心が高まったことで、リフォーム需要が手堅く推移しております。

当工業会では、時代に沿って改編をしたVision2025の目標達成に向け推進を行いました。インターホン・オブ・ザ・イヤーでは、2次審査会を出展商品の確認が十分できるよう完全対面方式にて開催し、インターホンの日懸賞キャンペーンでは、コロナ禍の顧客ニーズの把握を行いました。劣化診断資格者認定講習会はWEB開催を定着させております。

本年は、従来から推進致しておりますインターホン高機能化による防災・防犯へのお役立ちとともに、コロナ禍での安全・安心・利便性をより高める活動を訴求してまいります。併せまして、消防庁より2019年に発出されました「屋外警報装置等の技術基準ガイドライン」に基づく対応商品を引き続き創出してまいります。このような高機能な商品をお使いいただく事のメリットをお客様に発信し、「安全」「安心」「つながり」のある社会の実現に向けて邁進してまいります。また戸外表示器審査会においては、対面審査と書類審査を複合した審査方式を実施するなど、コロナ禍と共生した柔軟な活動を行い業界の活性化に向け推進してまいります。

本年も、私どもインターホン業界に対しまして、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご発展とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和5年1月

新年のご挨拶



全国消防協会 一般社団法人 一般職員の働き方をデジタルで改革
全国設備業DX推進会

一般社団法人 全国設備業DX推進会
会長 千田新一

新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、総務省消防庁をはじめ、日本消防検定協会及び各消防関係機関・団体の皆様には、当推進会の運営並びに会員各社へのご厚情を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて昨年は新型コロナウイルス感染症からの経済活動の再開が待たれる中、2月末のロシアによるウクライナ侵攻に伴うエネルギー価格の高騰、世界的な物価高騰、それに拍車をかけた円安と経済状況は非常に厳しい状態となり猶も続いていることから、一日も早い状況回復を祈るばかりです。

一方、コロナ禍で露呈した諸外国に比べたデジタル化の後れや少子化による労働人口の減少の打開策の一つとしての生産性向上を目的に、国は一昨年に発足したデジタル庁を中心に行政の業務をはじめデジタル化を推進しております。DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉が流行り言葉となっているといっても過言ではありません。

この様な状況下、当会は昨年6月の定時総会において、役員を一新し、会の名称もIT推進会からDX推進会へと変更、新たに出発致しました。これまで継続して行ってきました、電気設備工事業並びに管工事業の業務のIT化による生産性向上の推進の実績をもとに消防設備点検業務等のIT化による会員各位の生産性向上を図るべく“消防業界のデジタル化を支援”を活動方針に「消防防災DX推進委員会」を組織し、各地での電子申請勉強会・研修会や情報交換会等の開催や横浜国際消防・防災展やビルメンフェアへの出展などを行って参りました。本年も皆様のお役に立てるよう様々な活動を企画し、消防業界のデジタル化を支援して参ります。本年は特に6月に行われる東京国際消防防災展2023への出展も予定しております。

本年も、当会に対しまして、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご発展とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



「表面張力計」の更新について

消火・消防設備部 消火設備課

泡消火薬剤の拡散係数の試験等に使用する、表面張力計を更新しましたので紹介します。

1 試験機の概要

本試験機は、泡消火薬剤の技術上の規格を定める省令（昭和50年12月9日自治省令第26号）第14条（以下「省令」という。）に規定されている拡散係数の試験等を行う試験機です。

省令では、JIS K 2241に定める切削油剤試験方法により測定を行い拡散係数が3.5以上であることが規定されています。なお、協会の型式試験においてはウィルヘルミ式による測定を選択しています。

白金プレート（図1）が液体の表面に触れると、プレートの周辺に沿って表面張力（液体分子間に働く力）がはたらき、プレートを液中に引き込もうとします。表面張力計は、この引き込む力を測定しています。

泡消火薬剤の型式試験では、シクロヘキサンの表面張力及び泡水溶液（泡消火薬剤に水を加え設計された容量パーセントの濃度にした水溶液）の表面張力を測定し、その後、シクロヘキサンと泡水溶液との境界面での界面張力を測定しています。拡散係数は、シクロヘキサンの表面張力から泡水溶液の表面張力及び界面張力を引いた値で求められます。

旧設備（図2）は、導入から約20年も経過しており構成部品の生産が終了しました。万一故障した場合、型式試験の進捗に影響するため、今回の更新にいたしました。

2 表面張力計の説明

旧設備と新設備（図3）は同じウィルヘルミ式であるため測定の実理は同じです。しかし、新設備の操作はパソコンでの制御となった点が大きく異なります。測定結果



図1. 白金プレート

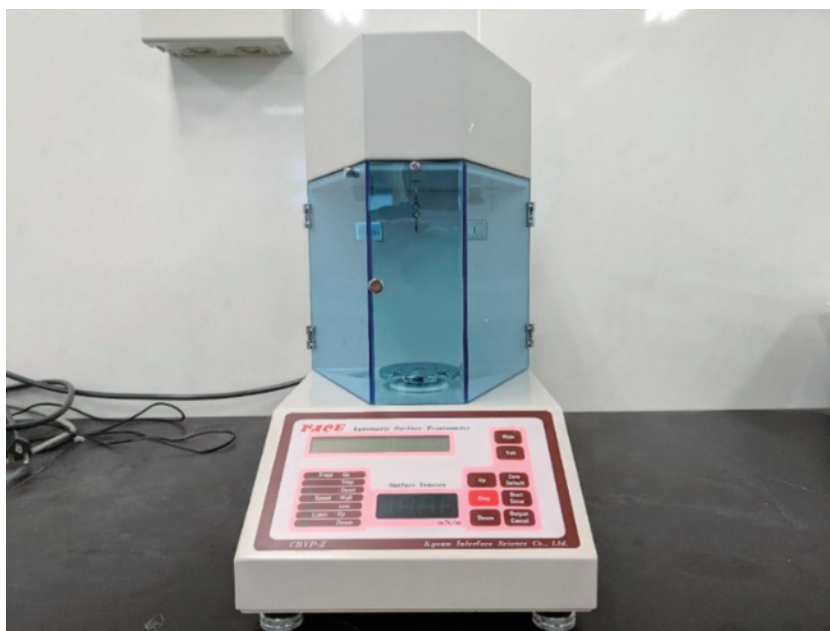


図2. 旧設備

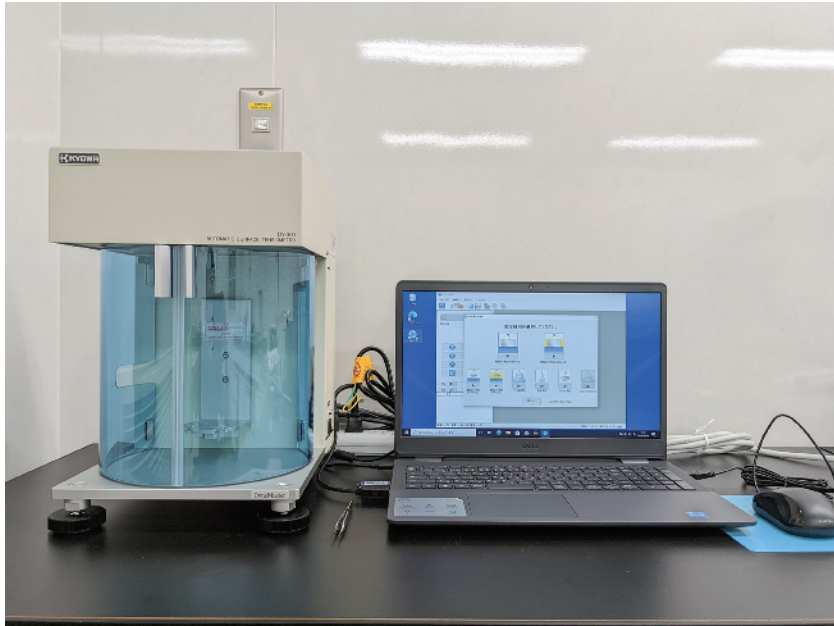


図3. 新設備



図4. 操作画面 (旧設備)

をグラフで出力できることやcsvファイルで出力できること等様々なことができるようになりました。

また、旧設備は、測定部と操作部が一体となっており、コンパクトな仕様でしたが、操作画面が小さく、操作が煩雑な面（図4）がありました。一方で、新設備は測定部と操作部が分かれており操作性が向上しました。

さらに、操作画面（図5）は視覚的につくられており、動画による操作説明機能（図6）も設けられているため簡便に測定ができるようになりました。

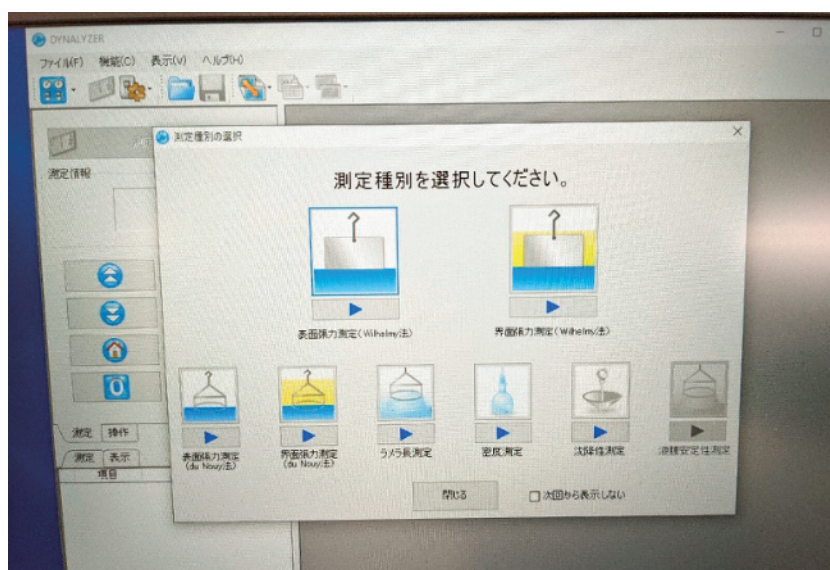


図5. 操作画面（新設備）

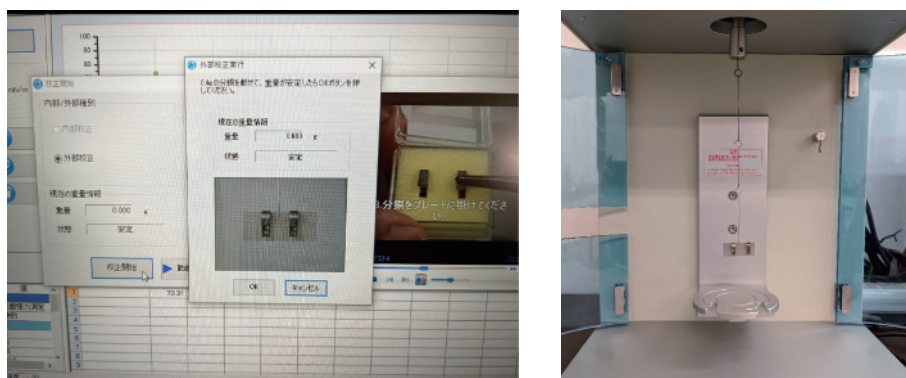


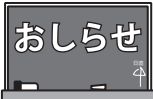
図6. 動画操作説明機能の指示に基づき校正を行う様子

4 表面張力計の仕様

表面張力計の主な仕様を表-1に示します。

表-1 表面張力計の主な仕様

項目	仕様
測定方法	表面張力測定（ウィルヘルミ式、デュヌイ式）、ラメラ長測定、液体密度測定（ピクノメーター式）
装置の大きさ	255mm（幅）×309mm（奥行）×369mm（高さ）
装置の質量	12.5kg
装置電源	AC100～240V
測定温度	10～70℃
繰返し性（標準偏差）	0.2mN/m
測定範囲	0～1000mN/m
表示分解能	0.01mN/m
ステージ速度	0.004～5.0mm/s
ステージストローク	48mm
標準測定子	白金プレート



有効期限を経過した受託評価品目

【消防用ホース】

試験番号	承認年月日	住所	依頼者	有効期限の終期日
H0324FC11A	H29.10.10	東京都中央区日本橋二丁目5番1号	帝国繊維株式会社	R4.10.9
H0325EC06A	H29.11.1	東京都中央区日本橋二丁目5番1号	帝国繊維株式会社	R4.10.31
H0325FC09A	H29.11.1	東京都中央区日本橋二丁目5番1号	帝国繊維株式会社	R4.10.31

【特定初期拡大抑制機器】

型式番号	承認年月日	住所	依頼者	有効期限の終期日
特評第239～1号	H24.11.6	福岡市南区清水4丁目19番18号九電テクノシステムズ(株)西エリア2号館内1階	株式会社水防協	R4.11.5

上記の機械器具等が型式に係る有効期限を経過し、かつ、更新手続きがされませんでしたのでお知らせします。

上記の機械器具等は、有効期限の終期日以降、当該型式に基づく製品について新たに当協会の型式適合評価を受け、合格表示が行われることはありません。

既に設置され又は型式適合評価を受け合格表示が行われた上記の機械器具等については、型式適合評価時において基準への適合性が確認されており適正な設置及び維持管理がされていれば、当該有効期限の経過による使用への影響はありません。

■■■業界の動き■■■

—会議等開催状況—

◆（一社）日本消火器工業会◆

○第9回 企業委員会
(令和4年12月13日)

- ・検定等申請・回収状況
- ・第64期スケジュールについて
- ・機器協会 会議報告
- ・消火器リサイクル推進センターからの報告

○第4回 理事・総務合同会議
(令和4年12月15日)

- ・定例報告
- ・機器協会 会議報告
- ・第64期スケジュールについて
- ・機器協会会長表彰推薦について

○第8回 技術委員会
(令和4年12月21日 対面・Web併用会議)

- ・消火器の検定細則について

◆（一社）日本消火装置工業会◆

○第426回「技術委員会」
(令和4年12月2日 日本消火装置工業会)

- ・「消防用設備等に係る着工届・設置届の添付書類作成テキスト（仮）に係る編集会議」について
- ・PFOS廃絶リーフレットについて
- ・ガス系消火設備用警報装置等標識板の

自主認定基準の確認について

- ・その他

○第206回「第二部技術分科会」
(令和4年12月15日 日本消火装置工業会)

- ・PFOS交換等のリーフレットについて
- ・水質汚濁防止法リーフレットについて
- ・技術的留意事項の解説について
- ・その他

○第188回「第三部技術分科会」
(令和4年12月12日 日本消火装置工業会)

- ・標識板の自主認定基準について
- ・点検票の様式の改正等の意見募集（パブコメ）について
- ・安全のための図書の見本作成について
- ・CO₂マニュアル等編集会議について
- ・CO₂法令改正説明資料の作成について
- ・その他

○第189回「第三部技術分科会」
(令和4年12月22日 日本消火装置工業会)

- ・標識板の自主認定審査について
- ・CO₂法令改正説明資料（補遺やQ&A）の作成について
- ・その他

協会通信

◆（一社）日本消防ポンプ協会◆

○大型技術委員会

（令和4年12月16日 web会議）

- ・新銘板について
- ・動力消防ポンプの規格省令について
- ・その他

協会通信

検定協会だより 令和5年1月

人事異動

◆消防庁人事◆

○令和4年12月31日付

(氏名)	(新)	(旧)
安田 裕	出向 【総務省大臣官房秘書課へ】 (辞職)	消防大学校庶務課
渡邊 明宏	辞職	消防大学校消防研究センター研究 企画部主任研究官

新たに取得された型式一覧

型式承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認 年月日
小型消火器	消第 2022～5号	株式会社 丸山製作所	粉末(ABC) 3.0kg(蓄圧式、アルミニウム製)	R4.11.14
	消第 2022～6号	ヤマトプロテック 株式会社	強化液 3.0l(蓄圧式、鉄製)	R4.11.24
閉鎖型スプリンクラー ヘッド	ス第 2022～5号	千住スプリンクラー 株式会社	1種可溶片型C72、呼称15(標準r2.6、下 向き)	R4.11.7
	ス第 2022～6号	千住スプリンクラー 株式会社	1種可溶片型C96、呼称15(標準r2.6、下 向き)	R4.11.7
光電式住宅用防災 警報器	住警第 2022～6号	ホーチキ株式会社	電池方式、2種(DC3V、300mA)、自動試 験機能付	R4.11.14
	住警第 2022～7号	ホーチキ株式会社	電池方式、2種(DC3V、300mA)、自動試 験機能付	R4.11.14
光電式住宅用防災 警報器(CO反応式)	住警第 2022～8号	新コスモス電機 株式会社	電池方式、2種(DC3V、300mA)、自動試 験機能付	R4.11.14
	住警第 2022～9号	新コスモス電機 株式会社	電池方式、2種(DC3V、300mA)、自動試 験機能付	R4.11.14

型式変更承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認 年月日
光電式住宅用防災 警報器	住警第 2022～1～1号	新コスモス電機 株式会社	外部電源方式、2種(AC100V、70mA)、 自動試験機能付	R4.11.7

品質評価 型式評価

種 別	型式番号	依頼者	型 式	承認年月日
動力消防ポンプ	P180S	株式会社モリタ	消防ポンプ自動車、A-2、ME-5	R4.11.9
	P010F	株式会社 シバウラ防災製作所	可搬消防ポンプ、B-3、B505	R4.11.18
	P010G	株式会社 シバウラ防災製作所	可搬消防ポンプ、C-1、C505	R4.11.18
消防用ホース	H0425DC09A	株式会社 横井製作所	平、合成樹脂、使用圧1.6、呼称40（シングル、ポリエステル・ポリエステルフィラメントアラミドフィラメント綾織、円織）	R4.11.14
	H0425EC14A	株式会社 横井製作所	平、合成樹脂、使用圧1.6、呼称50（シングル、ポリエステル・ポリエステルフィラメントアラミドフィラメント綾織、円織）	R4.11.14
	H0425FC13A	株式会社 横井製作所	平、合成樹脂、使用圧1.6、呼称65（シングル、ポリエステル・ポリエステルフィラメントアラミドフィラメント綾織、円織）	R4.11.14
	H0322EA03A	帝国繊維株式会社	平、合成樹脂、使用圧0.9、呼称50（シングル、ポリエステルフィラメント・ポリエステルフィラメント交織、円織）	R4.11.24
	H0324EA04A	帝国繊維株式会社	平、合成樹脂、使用圧1.3、呼称50（シングル、ポリエステルフィラメント・ポリエステルフィラメント交織、円織）	R4.11.24
消防用結合金具	C09BB02A	株式会社 丸共ユニオン	使用圧2.0、差込式受け口、呼称25	R4.11.14
特殊消防ポンプ自動車 又は特殊消防自動車に 係わる特殊消火装置	M39L-1	株式会社 モリタテクノス	はしご付消防ポンプ自動車	R4.11.28
	GMC-A3A-4	ジーエムいちほら 工業株式会社	化学消防ポンプ自動車	R4.11.28

認定評価 型式評価

種 別	型式番号	依頼者	型 式	承認年月日
非常警報設備・ スピーカー	認評放第 2022～9号	日本電音株式会社	コーン型（5W/10W/20W・L級）、音響パワーレベル98dB	R4.11.15
	認評放第 2022～10号	株式会社JVCケンウッド・ 公共産業システム	コーン型（1W/3W/6W・L級）、音響パワーレベル92dB	R4.11.28
	認評放第 2022～11号	株式会社JVCケンウッド・ 公共産業システム	コーン型（1W/3W・L級）、音響パワーレベル89dB	R4.11.28
放水型ヘッド等を用いる スプリンクラー設備・制御部	S029C008	札幌市	可動式ヘッド（小型ヘッド）、放水圧力制御弁、 GJV-AD100	R4.11.30
放水型ヘッド等を用いる スプリンクラー設備・放水部	S029H006	札幌市	可動式ヘッド（小型ヘッド）、大規模放水銃、 GAS3615DEJ	R4.11.30

認定評価 型式変更評価

種 別	型式番号	依頼者	型 式	承認年月日
非常警報設備・ 非常電話	認評放第 2022～1～1号	ホーチキ株式会社	AC100V	R4.12.5

検定協会だより 令和5年1月

検定対象機械器具等申請一覧表

種別		型式試験 申請件数	型式変更試験 申請件数	型式適合検定			
				申請件数	申請個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)
消火器	大型	0	0	19	4,493	117.3	119.1
	小型	2	0	65	549,521	124.6	107.5
消火器用消火薬剤	大型用	1		1	50	125.0	155.4
	小型用			9	8,848	170.3	101.5
泡消火薬剤		0		21	173,070	73.3	92.6
感知器	差動式スポット型	7	0	33	171,885	96.1	118.0
	差動式分布型	0	0	9	5,845	83.1	125.5
	補償式スポット型	0	0	0	0	皆減	4.7
	定温式感知線型	0	0	1	200	皆増	37.0
	定温式スポット型	6	0	33	72,418	60.1	113.2
	熱アナログ式スポット型	3	0	6	3,763	44.2	141.7
	熱複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	イオン化式スポット型	0	0	0	0	皆減	皆減
	光電式スポット型	1	0	38	108,388	67.8	109.1
	光電アナログ式スポット型	0	0	17	44,896	120.1	145.6
	光電式分離型	0	0	4	79	92.9	144.5
	光電アナログ式分離型	0	0	2	45	42.9	79.2
	光電式分布型	0	0	0	0	-	-
	光電アナログ式分布型	0	0	0	0	-	皆増
	煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	熱煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	紫外線式スポット型	0	0	0	0	皆減	77.1
	赤外線式スポット型	0	0	11	434	38.1	122.0
	紫外線赤外線併用式スポット型	0	0	1	274	皆増	71.0
炎複合式スポット型等	0	0	0	0	-	-	
発信機	P型1級	0	0	8	22,080	68.3	132.9
	P型2級	0	0	6	3,936	76.6	138.4
	T型	0	0	0	0	-	-
	M型	0	0	0	0	-	-
中継器		0	0	68	35,240	89.1	110.8
受信機	P型1級	0	0	41	2,639	84.0	106.9
	P型2級	0	2	13	4,730	95.8	102.0
	P型3級	0	0	1	100	185.2	1,529.6
	M型	0	0	0	0	-	-
	R型	0	0	10	117	134.5	151.3
	G型	0	0	4	18	200.0	135.3
	GP型1級	0	0	11	30	78.9	104.1
	GP型2級	0	0	0	0	-	-
	GP型3級	0	0	6	34,621	74.1	130.4
GR型	0	0	23	255	69.3	100.8	
閉鎖型スプリンクラーヘッド		0	0	37	189,309	105.3	122.1
流水検知装置		0	0	43	2,274	117.2	120.8
一斉開放弁		1	0	18	1,944	94.6	94.4
金属製避難はしご	固定はしご	0	0	0	0	皆減	122.8
	立てかけはしご	0	0	0	0	-	-
	つり下げはしご	0	0	21	13,806	113.3	109.0
緩降機		0	0	3	510	126.9	108.8
住宅用防災警報器	定温式住宅用防災警報器	0	0	18	60,248	101.0	78.6
	イオン化式住宅用防災警報器	0	0	0	0	-	-
	光電式住宅用防災警報器	1	0	40	303,310	98.4	89.5
合計		22	2	641	1,819,376	95.9	105.7

※前年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

性能評価申請一覧表

特殊消防用設備等性能評価業務	性能評価申請件数	性能評価変更申請件数
特殊消防用設備等の性能に関する評価	0	0

受託評価等依頼一覧表

品質評価業務	型式評価依頼件数	型式変更評価依頼件数	更新等依頼件数	型式適合評価			
				依頼件数	依頼個数	対前年 同比 (%)	対前年 累計 (%)
補助警報装置及び中継装置	0	0	0	0	0	-	-
音響装置	0	0	0	2	1,000	166.7	80.5
予備電源	0	0	5	4	16,300	90.6	102.5
外部試験器	0	0	0	2	70	46.1	77.7
放火監視機器	放火監視センサー	0	0	0	0	-	63.5
	受信装置等	0	0	0	0	-	150.0
光警報装置		0	0	0	1	800	皆増
	光警報制御装置	0	0	0	1	60	皆増
屋外警報装置	0	0	0	0	0	-	-
	屋外警報装置に接続する中継装置	0	0	0	0	-	-
消火器加圧用ガス容器	0	0	0	3	23,000	46.7	134.5
蓋圧式消火器用指示圧力計	0	0	0	8	526,500	86.2	102.8
消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁	0	0	0	6	7,032	107.4	87.0
消火設備用消火薬剤	0	0	0	9	117,845	209.4	112.9
住宅用スプリンクラー設備		0	0	0	0	-	-
	構成部品	0	0	0	0	-	-
動力消防ポンプ	消防ポンプ自動車	1	12	75	122	91.0	82.7
	可搬消防ポンプ	0	1	5	198	64.1	97.3
消防用吸管	呼称65を超えるもの	0	1	4	334	32.4	85.1
	呼称65以下のもの	0	0	2	50	16.1	84.9
消防用ホース	平 40を超えるもの	0	0	16	30,467	77.1	88.0
	平 40以下のもの	0	0	15	49,900	126.5	72.9
	濡れ	0	0	0	0	-	-
	保形	0	0	5	7,000	87.5	101.1
	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	-	1,200.0
消防用結合金具	差込式	0	4	31	67,146	99.0	82.4
	ねじ式	0	0	21	12,083	101.8	99.3
	大容量泡放水砲用	0	2	0	0	-	-
	同一形状	0	1	2	140	11.4	7.7
漏電火災警報器	変流器	0	0	11	4,054	82.7	120.0
	受信機	0	1	7	1,825	58.0	99.7
エアゾール式簡易消火具	0	0	0	1	19,990	51.3	117.3
特殊消防ポンプ自動車	1	0	29	31	75.6	70.8	
特殊消防自動車				5	5	71.4	30.8
可搬消防ポンプ積載車	0	1	1	1	100.0	100.0	
ホースレイヤー	0	0	0	0	-	94.4	
消防用積載はしご	0	0	3	35	18.1	75.7	
消防用接続器具	0	8	13	3,452	85.9	93.8	
品質評価業務				確認評価			
				依頼件数	依頼個数	対前年 同比 (%)	対前年 累計 (%)
外部試験器の校正				8	32	103.2	80.1
オーバーホール等整備				5	5	250.0	128.9

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

受託評価等依頼一覧表

認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同比 (%)	対前年 累計 (%)	
地区音響装置	0	0	0	25	34,268	59.6	126.5	
非常警報設備	非常ベル及び自動式サイレン	0	0	27	3,263	33.2	104.6	
	放送設備	1	1	61	64,553	72.7	96.6	
パッケージ型自動消火設備		0	0	0	0	-	-	
	構成部品	0	0	0	0	-	-	
総合操作盤	0	0	0	0	0	-	-	
屋内消火栓等	易操作性1号消火栓	0	0	0	11	3,926	140.0	107.0
	2号消火栓	0	0	1	7	1,644	88.4	85.0
	広範囲型2号消火栓	0	0	0	7	980	148.5	137.8
	補助散水栓	0	0	0	0	0	-	-
	ノズル	0	0	2	22	7,916	109.7	110.3
認定評価業務	装着番号付与 確認評価 依頼件数		更新等 依頼件数	製品確認評価				
屋内消火栓等	消防用ホースと結合金具の装着部	0	0	12	47,577	90.1	74.3	
認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
特定駐車場用泡消火設備	0	0	0	14	11,310	55.7	140.1	
認定評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備 (評価)	0							
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備・構成装置		1	0	3	9	9	75.0	118.0
特定機器評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価依頼 件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
特定消防機器等	0	0	0	0	12	4,988	36.1	80.6
受託試験及びその他の評価	依頼件数				依頼件数	依頼個数	対前年 同比 (%)	対前年 累計 (%)
受託試験 (契約等)	4							
受託試験 (その他の契約等)					0	0	-	110.0
評価依頼 (基準の特例等)	1							

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

編集 後記

謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

2023年は十二支で「卯」、六十干支（ろくじっかんし）。60年で一巡）では「癸卯（みずのとう）」であり、「これまでの努力が花開き、実り始めること」という縁起の良さそうな意味があるとのこと。

最近では2011年、1999年、1987年が卯年にあたりますが、2011年には、地上波デジタル放送への完全移行、東日本大震災などが、1999年にはiモードサービス開始などが、1987年には国鉄が民営化されJRグループが発足など、時代の終わりや始まりを告げる出来事が起こっているようです。是非、干支の特徴が示すように、4年目となる新型コロナウイルス感染症を人類が克服し、今年1年が平穏であるよう祈るばかりです。

昨年、我が国で猛威を振るった新型コロナウイルス

「オミクロン株」ですが、昨年に広く見られたオミクロン株の亜種「BA.5」に代わって、より感染力が強いオミクロン株の亜種「BQ.1.1」が世界の主流になることが懸念され、各国の医療関係者、免疫学者などが注視しているとのこと。ウイルスは変異する性質があるため、これまでのワクチン接種によって得られた免疫を回避する可能性もありますが、当面、マスクなどの基本的な感染対策と最新のワクチン接種が鍵となりそうです。

さて、今月号では、消防庁長官の前田一浩様をはじめ、全国消防長会会長の清水洋文様、関係工業会の各代表の皆様には新年のご挨拶をご寄稿いただき誠にありがとうございました。

2月号では、静岡県消防局長の秋山義隆様には巻頭のことばを、消防庁総務課からは「令和5年度消防庁予算案の概要と令和4年度消防庁補正予算の概要について」を掲載する予定です。

検定協会からのお願い

検定協会では、消防用機械器具等について検定及び受託評価を行い、性能の確保に努めているところですが、さらに検定及び受託評価方法を改善するため、次の情報を収集しています。心あたりがございましたら、ご一報下さいますようお願いいたします。

(1) 消防用機械器具等の不動作、破損等、性能上のトラブル例

(2) 消防用機械器具等の使用例（成功例又は失敗例）

連絡先 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
日本消防検定協会 企画研究課
電話 0422-44-8471（直通）
E-mail
<kikenka@jfeii.or.jp>

発行 日本消防検定協会

<http://www.jfeii.or.jp>



本所 〒182-0012 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
TEL 0422-44-7471(代) FAX 0422-47-3991



大阪支所 〒530-0057 大阪市北区曽根崎 2-12-7 清和梅田ビル4階
TEL 06-6363-7471(代) FAX 06-6363-7475



虎ノ門事務所 〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル16階
TEL 03-5962-8901 FAX 03-5962-8905

検定協会だよりはホームページでもご覧になれます。

当該刊物にご意見・ご要望・ご投稿がありましたら、本所の企画研究部情報管理課検定協会だより事務局までお問い合わせください。
e-mail : kikaku@jfeii.or.jp 専用 FAX 0422-44-8415

